

## 第 372 回例会報告

高分子分析研究懇談会の第 372 回例会が、4 月 21 日(月)に東京五反田の「ゆうぼうと」にて開催された。今回は 2014 年度最初の例会であり、始めに総会が行われた。本研究懇談会旧運営委員長の衣笠晋一氏(産業総合研究所)より、2013 年度の活動・会計報告および顧問就任の提案が行われ、引き続き新運営委員長の佐藤信之氏(東レリサーチセンター)より、2014 年度の運営委員の紹介および活動計画と収支予算が説明され、いずれも承認された。続いて講演 2 件およびワークショップ 2 件が行われ、活発な議論がなされた。なお、参加者は 72 名を数え会場は満席となり、非常に盛況な会となった。

講演 1 件目は、佐藤 浩昭氏(産業総合研究所)より「精密質量分析による高分子化合物のキャラクタリゼーション」と題して、質量分析によるポリマーキャラクタリゼーションについて、基本原理から応用例までを紹介された。なお、本発表は、昨年行われた第 18 回高分子分析討論会にて実行委員長賞を受賞された研究成果について、詳細に報告していただいたものである。精密質量分析と二次元マップ上で表現するデータ解析法(Kendric mass defect 解析)により、各ピークの帰属を行うことなく、高分子化合物の組成分布や末端構造を解析可能なことが理解できた。

その後、1 件目のワークショップで中谷 善昌氏(資生堂)より「赤外分光と多変量解析を組み合わせた化粧品の品質評価事例の紹介」と題する講演が行われ、多変量解析の基礎原理、および主成分分析による市販化粧品の分類について発表された。解析ソフトや参考書籍についても紹介があり、実用的な観点から見て、参考となる講演であった。また、多変量解析の扱い方について活発な議論もあり、参加者の関心の高さが感じられた。

続いて、2 件目のワークショップでは田中 薫氏(コニカミノルタ)より「HPLC/コロナ CAD 測定による工業材料の分析」と題する講演が行われ、コロナ CAD 検出器導入の経緯、原理、および界面活性剤、及び UV 硬化材料等工業材料の分析例について発表された。コロナ CAD 検出器を用いることで、得られる分析情報が飛躍的に向上し、未知化合物を含む不揮発成分の一斉定性分析や脂肪族系化合物の微量定量が可能となったことが理解できた。

最後の2件目の講演では田坂 茂先生(静岡大学)より「接着・粘着界面の構造と熱的性質」と題する発表が行われた。極性高分子表面・界面の構造と分子運動という、非常に興味深く、かつ非常に難しい課題に対して、詳細に解説された。高分子材料の接着・粘着性を考える上で非常に示唆に富む講演であり、質疑応答も活発なものとな

った。本講演への参加者の関心の高さが感じられた。

例会終了後には講師の先生を囲んで交流会が行なわれ、和やかな雰囲気の中参加者の間で親交を深めた。

(旭硝子 (株) 鈴木俊夫)